本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビルサービスセンター	〒541	大阪市東区平野町５丁目１	☎大 阪 06 (202) 2221
南　支　社	〒557	大阪市西成区玉出東２丁目９番41号	☎大 阪 06 (652) 0001
北　支　社	〒532	大阪市淀川区十三本町3丁目6番35号	☎大 阪 06 (301) 1251
堺　支　社	〒590	堺市住吉橋町２丁目２番１９号	☎堺 0722(38) 1131
北摂支社	〒569	高槻市栄の里町３９番６号	☎高 槻 0726(71) 0361
阪神支社	〒662	西宮市和上町４番１１号	☎西 宮 0798(26) 3101
東部支社	〒578	東大阪市稲葉２丁目３番１７号	☎河 内 0729(62) 1131
京阪支社	〒573	枚方市西田宮町１６番１７号	☎枚 方 0720(41) 1251
神戸支社	〒650	神戸市中央区相生町5丁目13番10号	☎神 戸 078(576) 5231
京都支社	〒604	京都市中京区烏丸通御池角	☎京 都 075(231) 8151
奈良支社	〒631	奈良市学園北２丁目４番１号	☎奈 良 0742(44) 1111
和歌山支社	〒640	和歌山市本町１丁目１番１号	☎和歌山 0734(31) 2481
姫路支社	〒670	姫路市神屋町４丁目８	☎姫 路 0792(85) 2221
東播支社	〒675	加古川市加古川町寺家津２９－１	☎加古川 0794(21) 1801
豊岡支社	〒668	豊岡市三坂町６丁目５７番地	☎豊 岡 07962(3) 2221
湖南支社	〒525	草津市追分南字荒堀６８０－１	☎草 津 0775(62) 5311
彦根支社	〒522	彦根市大東町１２番１１号	☎彦 根 0749(22) 3131
（長浜営業所	〒526	長浜市南呉服町３番４号	☎長 浜 0749(62) 7171）

その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

大阪ガス株式会社

大阪ガス

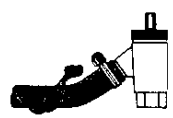
ガス一口コンロ
取扱説明書

10-125・126型

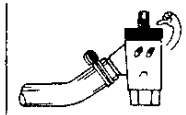
保証書付

型式 PA-100-5

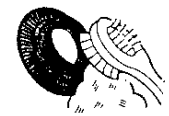
ガス器具をお使いになるときのご注意



ガスゴム管も
ときどき点検
よいゴム管を
ガッチリと



ガス器具を
お使いになった
あとは必ず
もとコックも
閉める習慣を



毎日使う
ガスコンロの
バーナーなど器具も
ときどきお手入れを

ガス器具は
ガスの種類にあった、
正しいものを

●ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ごあいさつ

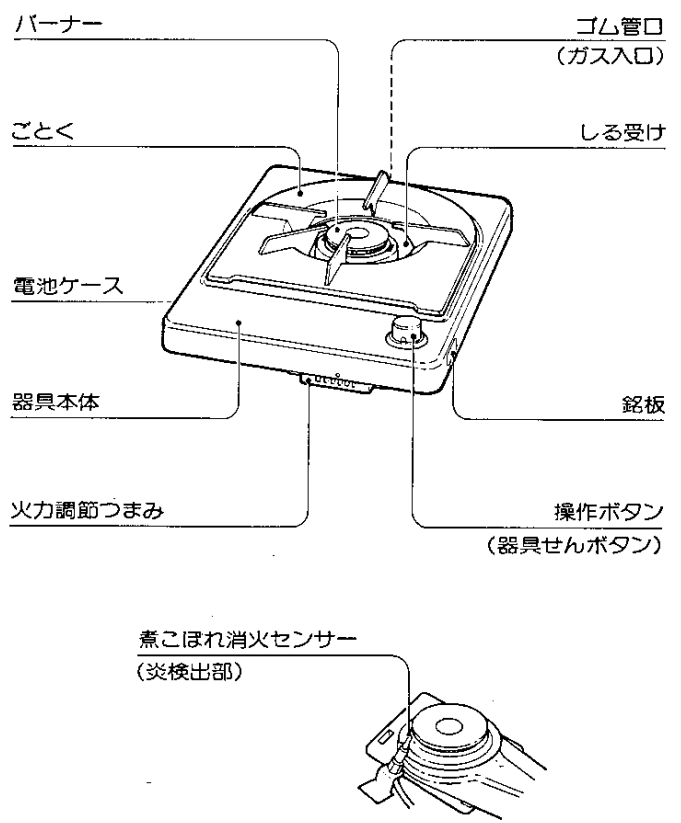
このたびは、大阪ガスのガス一口コンロをお求めいただきありがとうございました。

別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保存してください。

も　く　じ

- 各部の名称…… 2
- 特に注意していただきたいこと…… 3
- 器具の設置 …… 9
- 使用手順…… 12
- 使用時のご注意…… 15
- 日常の点検・手入れ…… 17
- 故障・異常の見分け方と処置方法…… 20
- 長期間使用しない場合…… 21
- アフターサービスのお申し込み…… 21
- 寸法図と仕様一覧表…… 22

各部の名称

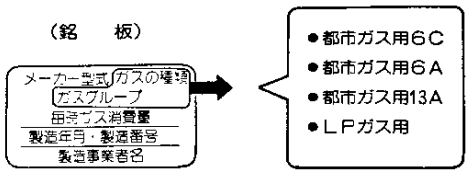


特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

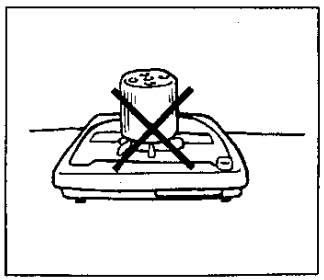
●ガスの種類を確かめてください。
ガス器具本体の右側面にはってある銘板(ラベル)に表示のガスの種類と、お宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。



●ガスの種類には、都市ガスとＬＰガスとがあり、都市ガスには、ガスグループの区分があります。
●転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

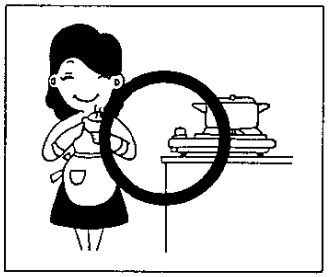
用途についてのご注意

●調理以外の用途（炭・煉炭おこし・衣類の乾燥など）には使用しないでください。
過熱・異常燃焼などによる焼損、火災などの危険があります。

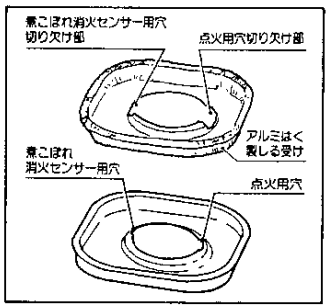


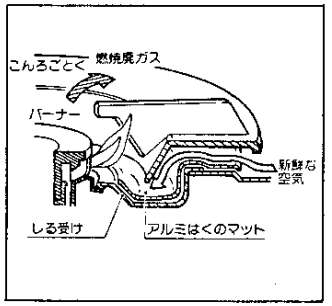
市販の補助用具使用についてのご注意

●極端に大きな鉄板やなべ、熱を逃がさないようにするためのなべ枠、または不良の補助用具などで炎をふさいで使うことはさけてください。
不完全燃焼をおこしたり、器具を異常に過熱し危険です。



●市販のアルミはく製しる受けをお使いになる場合は、次のことにご注意ください。
・しる受けの点火用穴、煮こぼれ消火センサー用穴をふさがないように、大きく切り欠きを設けてください。バーナーに近づいて炎に当ったり点火用の穴をふさぐと点火の際に着火しなかったりします。
・ごとくとしる受けとのすき間をふさいだり、浮きあがったりしないように正しくセットしてお使いください。不完全燃焼の原因になります。

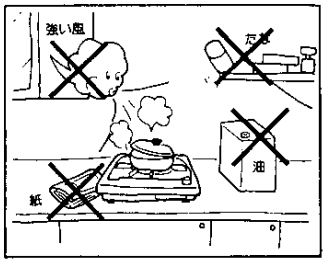




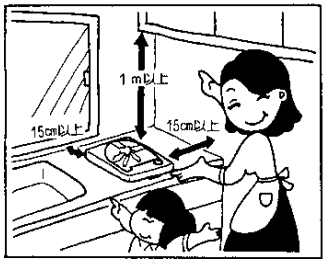
●上のせてんぴは使用しないでください。

特に注意していただきたいこと ③

使用場所についてのご注意



- 強い風の吹き込む所では使用しないでください。
  炎が風で吹き消えることがあります。
- カーテンや、燃えやすいものの近くでは使用しないでください。
  燃え移る危険があります。
- たなの下など、落下物の危険のあるところでは使用しないでください。
- テーブルコンロの周囲が木材のような可燃性の壁面の場合は、過熱を防ぐため左右及び後面ともに15cm以上、上方は1m以上離してお使いください。

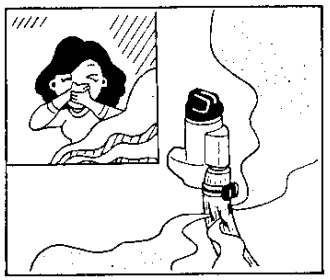


- 上記の距離がとれない場合は、必ず別売の防熱板を取りつけてください。
  壁が長期間加熱されると比較的低温でも自然発火することがあります。

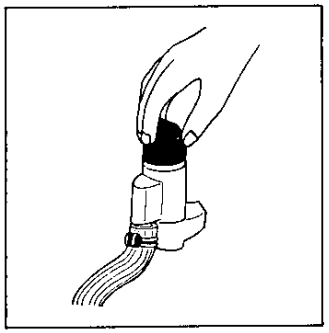
ガス漏れ予防

- ゴム管はガス用ゴム管を使用し、ビニール管は絶対に使用しないでください。
  ビニール管は弾力性がなく、熱にも強くありません。

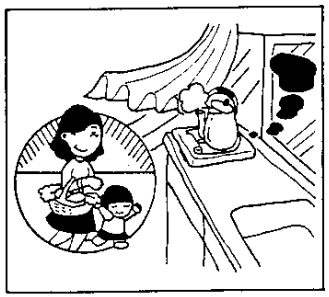
特に注意していただきたいこと ④



- ゴム管は良質のものを用い、ときどきとりかえてください。(おとりかえの目安は約3年です)
  ゴム管が古くなりますと、ガス元せんや器具のゴム管口から抜けやすくなったり、ヒビ割れしてガス漏れの原因になり危険です。
- 使用中は決して外出しないでください。
- 使用時の点火・消火のほか、使用中には時どき正常に燃焼していることを確かめてください。
- 器具をご使用にならないときや外出前、またおやすみ前には万一の事故がないように、必ずガス元せんを閉めてください。
- 使用後は必ず操作ボタンを押し、消火したことを確かめてください。

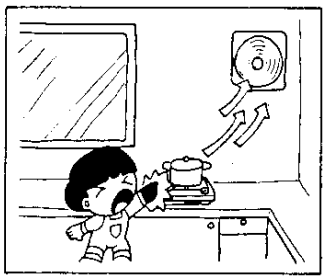


火災予防



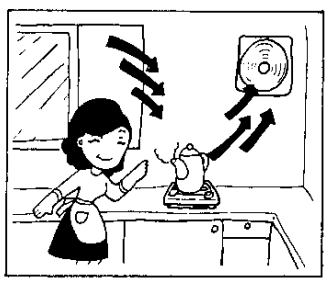
- 器具の上やそばに燃えやすいもの(紙、カーテン、家具、揮発油など)を絶対においたり近づけたりしないようにしてください。
- 火をつけたまま就寝、外出は絶対にしないでください。
- 火をつけたまま器具の使用場所をはなれないでください。
  特に天ぷら、フライ物をしているときは危険です。

やけどのご注意



- ご使用中および使用直後は、器具本体とその周辺は熱くなりますので、手を触れたりしないでください。特に小さなお子様がいるご家庭はご注意ください。
- 持ち運びの際は、器具が十分に冷えていることを確認し、器具が水平な状態で持ち運びしてください。傾いた状態では、バーナートップ、ごとく等が落ちるおそれがあります。

換気のご注意



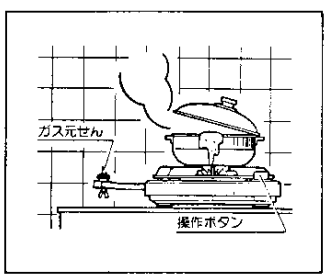
- 使用中は時どき窓を開けるか、換気扇を回して、お部屋の空気を入れ替えてください。
  ガスが正しく燃えるためには、ガスの6～10倍もの空気が必要です。しめきった部屋で長時間使用すると空気中の酸素が減少し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の危険があります。

ガス事故防止

- ガスもれに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんをとじ、窓や戸を全部あけて、大阪ガス支社または大阪ガスサービスステーションに連絡してください。

《ご注意》
万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり、換気扇その他電気器具にふれたり（スイッチの「入」・「切」や電源プラグの抜き差し等）しないでください。火や火花で引火し、爆発事故をおこすことがあります。

異常時の処置



- ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときはそのままお使いにならず、直ちにご使用を中止（消火操作、ガス元せん閉止）して、十分な点検をお願いします。

故障・異常の見分け方と処置方法については20ページをお読みください。

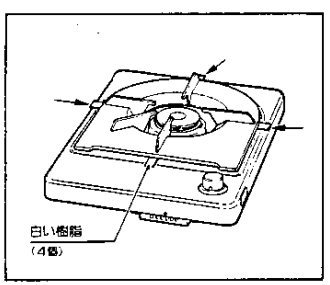
日常の点検・手入れ

- 器具を安全、快適にお使いいただくために、日常の点検、手入れは必ず行ってください。(詳しくは17~19ページをお読みください。)
- 故障又は破損したと思われるものは使用しないでください。
  不完全な修理は危険です。
- 万一具合が悪くなった場合は、20ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って処置してください。それでも不具合な場合は、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご連絡ください。

器具の設置

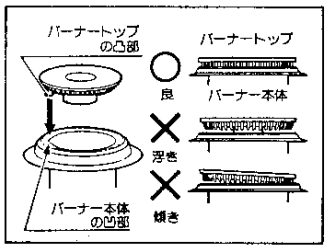
設置前の準備と確認

- 器具を段ボール箱から取り出し、包装部品を取り除いてください。しる受けと器具本体との間にはさんである白い樹脂も、ご使用前に必ず取り除いてください。
- 器具銘板に表示してあるガスの種類が、お宅の使用ガスと一致しているかどうかお確かめください。
- 2ページの「各部の名称」をご参照の上、器具の部品が正しくセットされているかお確かめください。

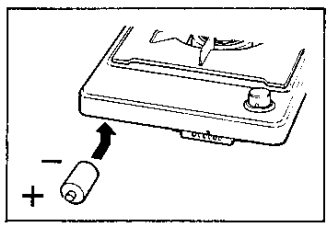


部品の取り付け

- バーナートップはバーナー本体の凹部に、バーナートップの凸部をはめこみ、浮き上がったり、傾いたりしないように取付けてください。きちんとはまっていないとバーナーの炎が不揃いになり、逆火してバーナーを傷めますのでご注意ください。

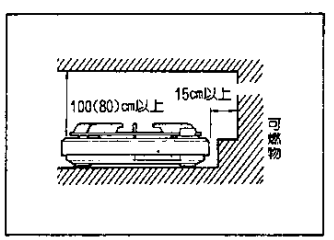


- 電池ケースは器体前面左下にあります。⊕が手前になるように、下方から正しくはめ込んでください。
  〈単1 1.5V 1個〉
  操作ボタンを押して"パチパチ"とスパークの音がすることを確認してください。



設置上のご注意

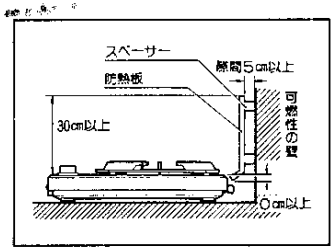
- じょうぶで水平なガス台の上に設置してください。
- 設置場所は換気の良い場所をお選びいただき、ご使用中は換気に注意してください。
- 周囲に可燃物(木製の壁、たなど)のある場合
  ・こんろの側面および背面は木製のような可燃性の壁から15cm以上、また上方は100cm以上(防熱板を取付けた場合は80cm以上)離してお使いください。
  ステンレス板やタイルなどを可燃性の壁に直接張りつけた場合でも上記の設置距離を必ずお守りください。

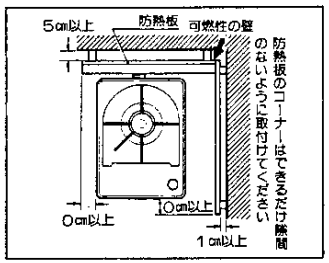


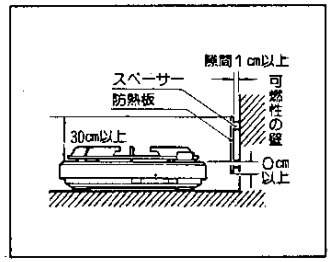
器具の設置　③

●可燃物の壁（ステンレス板等を張りつけた可燃性の壁も含む）から15cm以上離して設置できない場合

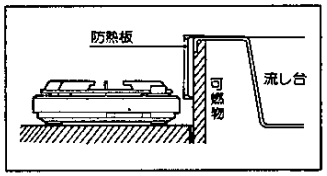
- 可燃性の壁から15cm以上離れていない所に設置する場合は図のように別売の防熱板を取付けてください。
（15-100-0202）





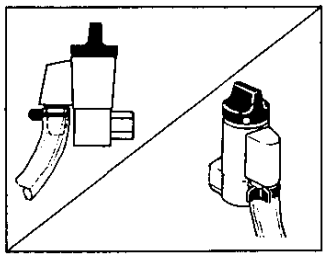


- 流し台の側面など可燃物が器具本体よりも高い場合は防熱板で流し台側面を保護してください。



ゴム管の接続

●ゴム管は赤線まで差し込んでしっかりととめてください。
9.5mmφのゴム管を使用し、お部屋の元せん、器具のゴム管口とも赤線まで十分差し込んで、ゴム管止めでしっかり止めてください。ゴム管止めでしっかり止めていないと、知らずにはずれかかってガスもれが生じることがあり危険です。



器具の設置　④

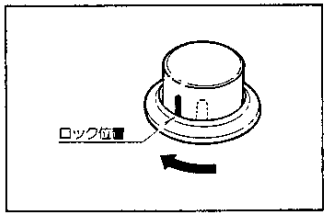
●ゴム管はガス用ゴム管を用い、折れたりねじれたりしないよう、できるだけ短かくし、また器具の下を通したり、器具に触れないようにしてご使用ください。器具の下を通したり、器具に触れていると、ゴム管が過熱して早く傷んだり、じゅうぶんな点検ができず危険です。
●ゴム管は古くなりますとガス元せんや器具のゴム管口から抜けやすくなったりヒビ割れを生じます。ゴム管もときどき点検して3年ぐらいを目安に新しいものとお取りかえください。
●ゴム管の継ぎたしおよび二又分岐はしないでください。
●ゴム管は直射日光があたらないようにしてください。
いたみがはやくなります。
●ゴム管を長くすると、あやまってふんだり、引っかけたりして、こんろや鍋が転倒するおそれがありますので、できるだけガス元せんの近くに設置してください。

使用手順

点火前の準備と確認

操作ボタンのロックのしかた

●操作ボタンを時計回りに45°回すとロックすることができます。
あやまって点火してしまうことを防止するためで、ロックしておくと安全です。
ロックはもとの位置に戻すと解除されます。



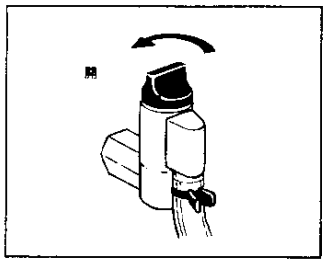
〈ご注意〉
●90°まで回すと操作ボタンがはずれますので、ロックするときは、45°の位置で止めてください。

使用手順 ②

点火前の確認

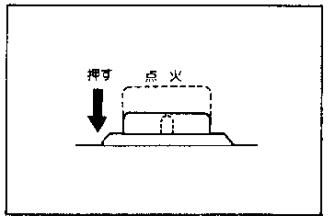
●操作ボタンが押していない（消火の位置にある）ことを確認したのち、ガス元せんを全開にしてください。

●ガス元せんを開く際には、誤って器具が接続されていないガス元せんを開いたり、他の器具のガス元せんを操作したりしないよう十分注意してください。



点 火

●ガス元せんを開け、操作ボタンを止まるまでいっぱいに下へ押してください。"パチパチ"と音がしてバーナーに着火します。
〈必ず着火を確認してください〉



《ご注意》
- ●点火操作は火力調節が「強」の状態で行ってください。
  火力調節が「弱」の位置で点火操作をすると、操作ボタンを押しているときは大きな炎で燃焼し、手を離すと同時に炎が小さくなります。
- ●なべ等をごとくにのせてから点火操作してください。火移りが確実ですし、ガスのムダが省けます。
- ●万一着火しない時は、操作ボタンをもう一度押して消火の位置に戻し、あらためて点火操作を行ってください。
- ●しばらく使わなかった時や初めて使う時には、ゴム管内に空気が入っておりますので、空気を追い出すために点火操作を3～4回繰り返してください。

使用手順 ③

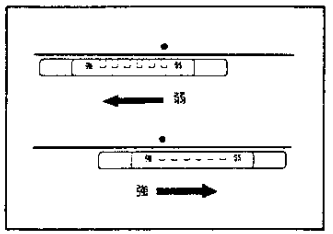
空気調節

●この器具は空気調節がしてありますので、そのまま使用してください。

●ガスが正しく燃えているかどうか、ときどき確認してください。

火力調節

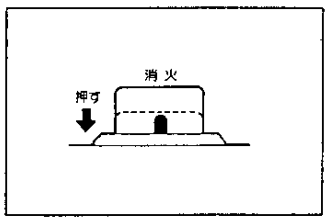
●炎を見ながら火力調節つまみを、器具本体の「●印」に「弱」～「強」の間でゆっくり動かして、火力調節してください。微妙な火力の調節が容易にできます。
（「弱」は「強」の約¼くらいの火力です。）



《ご注意》
- ●火力調節つまみはゆっくり操作してください。あまり早く操作すると消火することがあります。
- ●弱火でご使用のときは、風などによる吹き消えに十分注意し、ときどき燃焼していることを確認してください。
- ●火力調節の表示は目やすとしてお使いください。

消 火

●操作ボタンをかるく下へ押し、手を離してください。操作ボタンが消火の位置に戻り、火が消えます。



《ご注意》
- ●必ず火が完全に消えたか確認してください。
- ●ご使用後は、必ずガス元せんを閉じてください。

使用時のご注意

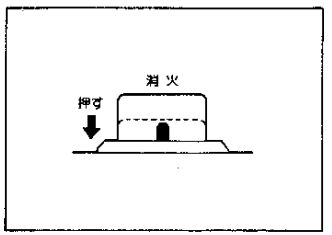
安全装置が作動したときの処置方法

●使用中、バーナーが消火してしまったときは、すぐに操作ボタンを押して消火の位置に戻し、ガス元せんを閉じ、20ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」および、次の方法により処置してください。

●煮こぼれ消火センサー(熱電対式)

・バーナーの炎が消えたときには、煮こぼれ消火センサーが働いて自動的にガスが止まりますが、完全に止まるまで少し時間がかかります。バーナーの消火に気づいたときはすぐ操作ボタンを押して消火の位置に戻してください。

・再点火されるときは、周囲に生ガスがなくなるまでしばらく待ってから「使用手順」に従って点火してください。



●過熱防止装置

・ご使用中に逆火などで器具が異常に過熱されると、過熱防止装置が働いてガスが止まります。すぐ操作ボタンを押して消火の位置に戻し、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご連絡ください。(部品を交換しないと、そのままではご使用になれません。)

使用上の注意

●点火の際には、ごとくになべや、やかんをかけて点火し、全部の炎口に着火したことを必ず確かめてください。

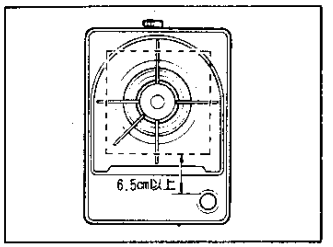
●炎を小さくすると消えることがありますのでご注意ください。

●風の吹き込みや、ふきこぼれなどによるバーナーの消火にご注意ください。

●点火装置の火花の出る先端に手を触れたまま操作しますと、電気ショック(ただし人体には害はありません)を受けますからご注意ください。

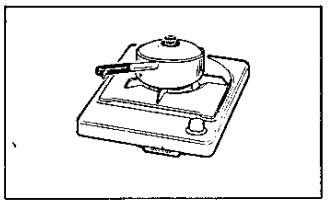
使用時のご注意 ②

●ごとくに乗らない小さいやかんや直径33cmを越えるなべは使用しないでください。



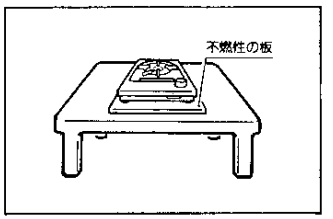
●鉄板は幅、長さとも20cm以下のものを使用してください。使用するときは、操作ボタンから6.5cm以上離してください。

●煮こぼれは器具を早くいためますのでご注意ください。煮こぼれした時は、必ず完全にふきとってください。



●片手なべなどをお使いのときは、とってをごとくのつめがたくさんある方にしてお使いください。安定よくご使用になれます。

●塗装・漆など熱に弱い食卓テーブルやビニールクロスの上でご使用のときは、変色することがありますので不燃性の板等を敷いてお使いください。

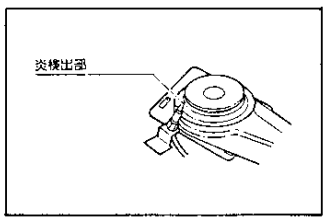


●煮こぼれ消火センサーについてのご注意

・煮こぼれ消火センサーの炎検出部に水滴や煮こぼれがつくと点火しにくくなったり、消火することがあります。なべの底についた水滴はふきとってからごとくの上にのせてください。(煮こぼれにも注意してください。)

・炎検出部に固いものをぶつけたりしないでください。取付位置が変わると点火しにくくなります。

・バーナーが煮こぼれなどでつまっていると、点火しないことがあります。



日常の点検・手入れ

点検・手入れの際のご注意

- 点検・手入れについては、下記の日常の点検以外は大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に依頼してください。
- 点検で異常を見つけられたときは、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に修理を依頼してください。
- 点検・手入れの前には必ずガス元せんを閉じ、器具が冷えてから行ってください。

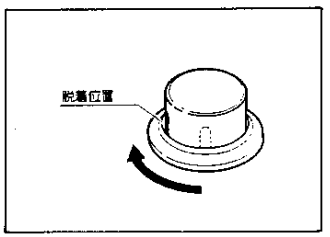
点 検

- 器具のまわりに燃えやすいものはありませんか。
- ゴム管が古くなってひび割れしたり、器具に触れたり、折れてはいませんか。またゴム管がガス元せんやゴム管口に十分に差し込まれていますか。
- バーナー本体・バーナートップ・ごとく・しる受けなどが正しくセットされていますか。
- 煮こぼれで、バーナーの炎口がつまっていませんか。

お手入れ

そのつど

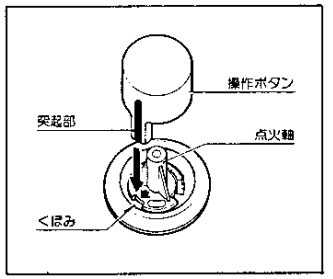
- ●ごとく・しる受け
  ・汚れのひどいときには、中性洗剤などで水洗いしたのち乾いた布で水気をふき取ってください。
- ●器具本体
  ・油などで汚れたときは、中性洗剤などでふき取ると簡単にきれいになります。
- ●操作ボタン
  ・油などで汚れのひどいときには、取りはずして中性洗剤などで水洗いしたのち、乾いた布で水気をふき取ってください。時計回りに90°回すと取りはずすことができます。取りはずした状態では点火軸にさわらないでください。



そのつど

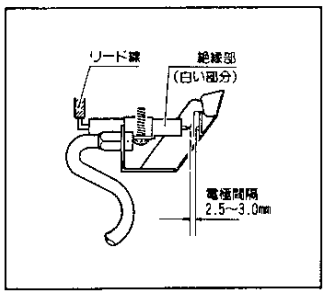
・操作ボタンの取付けは、点火軸にある矢印が示すくぼみに、操作ボタンの突起部をはめこみ、もとの位置に戻した後、点火（13ページの点火参照）することを確認してください。

《ご注意》
- ●点火軸が押された状態にあると、操作ボタンは取付けられません。



- ●点火装置

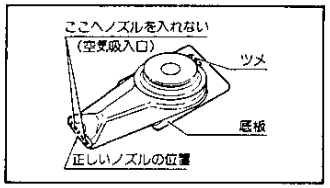
・煮こぼれ汁や水分が点火装置の絶縁部(白い部分)に着くと、火花が飛ばない（ガスが出ていても火がつかない）原因となります。その時は絶縁部の表面をよく清掃して、乾いた布でふいてください。
電極の取付け位置が狂いますと、着火しなくなりますので電極間隔は動かさないように注意してください。

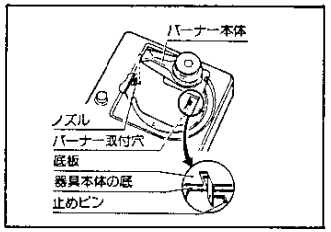


ときどき

●バーナー本体･バーナートップ
・バーナー本体・バーナートップを取りはずしてブラシや針金などで掃除してください。ただしバーナーの水洗いはさけてください。目づまりなどで悪くなったバーナーは取り替えていつもきれいな状態で使用してください。バーナーを目づまりさせたまま使用しますと、不完全燃焼をおこすことがあります。

・バーナーの取付けは、ノズルをバーナー本体の正しいノズル位置にはめ、底面のツメを器具本体の底のバーナー取付穴に入れて、器具本体の裏側より止めピンにて固定してください。
バーナートップもバーナー本体に確実にはめ込み、正常に燃焼することを確かめてください。(詳しくは10ページ部品の取り付けを参照)

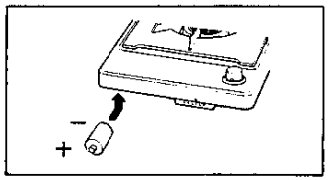




〈ご注意〉
●プラスチック、印刷面、塗装面のお手入れには強力洗剤、シンナー、ベンジンなどを使用しないでください。

乾電池交換のしかた

●乾電池は消耗品です。スパーク間隔が長くなった時は、新しい乾電池と取替えてください。〈単1 1.5V 1個〉
●電池ケースは器体前面左下にあります。⊕が手前になるように、正しく取付けてください。



故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

現象 / 原因	点火しない	着火しない	操作ボタンを押すと消火する	使用中に消火する	消火しない	黄炎で燃える	炎が安定しない	炎があふれる	異常音をたてて燃える	操作ボタンの操作が重い	ガスのにおいがする	処置・方法	参照ページ
ガス元せんが閉まっている	○											ガス元せんを開ける	'3
ゴム管の中に空気が残っている	○	○		○			○					点火操作を繰り返す	'3
ガス圧が適切でない	○	○	○			○	○	○	○			点検・修理を依頼する	-
ゴム管が折れている	○	○		○								ゴム管の折れをなおす	'2
ガス元せんの損傷ほか	○	○									○	点検・修理を依頼する	-
器具の損傷											○		
点火装置の絶縁部の汚れ	○											乾いた布にて掃除する	'8
空気吸入口にほこりが詰まっている						○		○				ブラシ等で掃除する	-
バーナーの取付けが悪い						○	○	○	○			点検・修理を依頼する	-
バーナートップの浮き・傾き		○		○		○	○	○	○			バーナートップを正しく取付ける	10
ゴム管のひび割れ・穴あき											○	新しいゴム管と交換する	6
ゴム管の接続が不完全											○	ゴム管の接続を確実にする	11
バーナーの腐食、炎口の詰まり		○				○	○	○	○		○	点検・修理を依頼する	-
煮こぼれ消火センサーの溶栓出部の汚れまたは付近の炎口つまり			○	○								乾いた布にて掃除する	16
器具の銘板と使用ガスが不一致	○	○		○		○	○	○	○		○	点検・修理を依頼する	3
点火操作が適切でない	○	○	○									使用手順(点火)参照	13
空気調節が適切でない		○		○		○	○	○	○			点検・修理を依頼する	-
リード線の接続不良	○												
ノズル詰まり	○	○		○		○							
煮こぼれ消火センサーの作動			○	○								「安全装置が作動したときの処置方法」参照	15
過熱防止装置の作動				○								点検・修理を依頼する	15
乾電池の取付けが悪い	○											乾電池を正しく取付ける	10
乾電池が消耗している	○											新しい乾電池と交換する	19
点火装置の故障	○									○		点検・修理を依頼する	-
器具せんの故障	○	○	○	○	○					○	○		
煮こぼれ消火センサーの故障			○	○									
過熱防止装置の故障			○	○									

処置や原因がわからないときは、ただちにお買い求めの販売店、または大阪ガス支社へご連絡ください。

長期間使用しない場合

●各部の汚れを取り除き、十分に乾燥したのちほこりなどの異物が入らないようにビニールをかけて、お求めになったときの箱に入れ、湿気やほこりの少ないところへ保管してください。特にガスの通路部分（ゴム管口など）にはほこりが入って通路をつまらせないように注意してください。

アフターサービスのお申し込み

サービスのお申し込み

●20ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。

●確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないでお買い上げの店またはもよりの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社、サービスステーションにご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。

(1) 品　名……(一口コン口)

(2) 品　番……左側面に張ってあります。(例)

(N)10-125(U)
大阪ガス株式会社 01

(3) 現　象……(できるだけ詳しく)

(4) 道　順……(できるだけ詳しく)

転居される場合

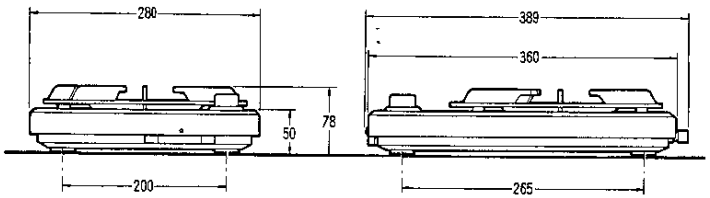
●ガスには都市ガス14種類およびＬＰガスの区分があります。ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認の上、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご相談ください。この場合調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料修理となります。

保証書について

●この器具には保証書がついています。
この一口コン口は保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

寸法図と仕様一覧表

寸　法　図



仕　様　一　覧　表

品名		ガス一口コン口
コード		10-125型・10-126型
形式の呼び		PA-100-5
点火方式		連続放電点火装置(連続スパーク点火装置)
外形寸法	高さ (mm)	78
	幅 (mm)	280
	奥行 (mm)	389
重量	(kg)	3.5
ガス接続 (mmφ)		9.5 ゴム管
ガス消費量	都市ガス6C(kcal/h)	1900
	都市ガス13A(kcal/h)	1900
	都市ガス6A(kcal/h)	1900
	ＬＰガス (kg/h)	0.176

おねがい

ガスくさいときはお部屋の元せんを閉め、窓を全開にしてから(火気に注意して)大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。